平成27年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	大学のグローバル化に即応できる1グループ6人で学ぶヒト生物学(Ⅰ)	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	医学部医学科	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	多田剛 (医学部)	
取組の目標	医学科1年次の「ヒト生物学」はこれまで多数の教員が日替わりで講義して学生はそれを聴講する一方向的な授業だったが、これを双方向性とし、予習を重視して学生が互いに教えあう授業に転換することを目指した。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<p>1)シラバスを書き直して、予習をしたいと思わせるように工夫した。</p> <p>2)学生が毎時間努力しないと単位が取れない仕組みを作った。</p> <p>3)教科書を英語の原著とした。</p> <p>4)授業の冒頭にミニテストを行い、その得点は総括的評価に組み入れた。</p> <p>5)当日の勉強範囲はグループごとに決めさせ、誰かが予習してこないとグループ全員が困るようにした。</p> <p>6)総括的評価は厳密に行い、基準以下の学生には単位を与えなかった。</p> <p>7)この成果は医学教育学会で報告した。</p>	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	<p>a. 達成できた</p> <p>b. おおよそ達成できた</p> <p>c. 半ば達成できた</p> <p>d. おおよそ達成できなかった</p> <p>e. 達成できなかった</p>	<p>(そう評価する理由)</p> <p>授業で欠席や遅刻する学生はほとんどなかった。平成27年度の授業アンケートでは(1)授業は目標にふさわしかったかとする質問に、58.4%が強くそう思う、そう思うにと回答した。(3)教育目標に沿っていたかについても68.3%の学生が肯定的に回答した。</p> <p>(今後の展望)</p> <p>次年度はさらに学生がグループ学習に慣れるようにディスカッションの時間を工夫する。また、他の学年や他の授業でも双方向性の授業が進むように双方向性の授業をさらに拡大していきたい。</p>